

旭川支部活動報告

小学校部会研究部長 旭川市立東栄小学校 森 優也
中学校部会研究部長 旭川市立東明中学校 杉浦 広憲

旭川支部は、旭川市教育研究会保健体育部を軸に活動をしており、100名を超える会員で成り立っている。部長、副部長、事務局長、運営委員を中心とした企画委員会を中心とし、研究委員会、事業委員会、編集委員会の3つの委員会に分かれて組織運営にあたっている。

1 旭川支部の研究

旭川支部では、令和5年度より「自ら求め、豊かにかかわる体育活動～共生の視点を大切に～」を新たに支部の研究主題とした。また、学習指導要領改訂のポイントにある「年齢や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無にかかわらず運動やスポーツの多様な楽しみ方が共有できる」ことや、全道統一主題の「学級集団に存在する『多様性』が資質・能力の高まりを促進する」ことを目指すために副題に「共生」という言葉を取り入れた。

支部研究主題（令和5年度から）

旭川支部 研究主題

「自ら求め、豊かにかかわる体育活動」～共生の視点を大切に～

【研究仮説】

教材の工夫や協働的に課題を解決する環境の設定、教師の関わりにより、児童・生徒は自ら目標に向かい、進んで運動に親しんでいく。課題解決を通して、一人一人の違いを大切に、多様性を尊重する態度を育むことができる。児童・生徒同士の良いつながりが次の学習への意欲を生み出し、学びが繰り返され深められていく。

研究の視点1～指導内容の工夫

- ① 目標や課題の適正化
- ② 個に応じた課題探究を促す教材設定
- ③ 多様な関わり方を盛り込んだ指導計画の作成

研究の視点2～関わりの工夫

- ① 子供と運動との関わり
- ② 子供同士の関わり
- ③ 教師と子供との関わり

□「共生」とは

体力や技能の程度、性別や障害の有無、個々の取組や思い等にかかわらず運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有すること。また、それぞれの能力を最大限に生かして学び合うことができるよう、仲間と考えを伝え合って自己の考えを深めようとしたり、互いの取組を認めて仲間との良好な関係を築こうとしたりすることと押さえる。

2 令和7年度旭川支部組織

支 部 長	成瀬 隆宏	(旭川市立永山南小学校	校 長)
副 支 部 長	上森 慎詞	(旭川市立豊岡小学校	主幹教諭)
事 務 局 長	新美 雅孝	(旭川市立緑が丘中学校	教 諭)
事務局長次長	藤原 紘治	(旭川市立旭川小学校	主幹教諭)
	辻 典男	(旭川市立北星中学校	主幹教諭)
研究部長(小)	森 優也	(旭川市立東栄小学校	教 諭)
研究部長(中)	杉浦 広憲	(旭川市立東明中学校	教 諭)

3 活動報告（旭川市教育研究会保健体育部）

令和6年	4月9日	旭川市教育研究会保健体育部総会
	4月27日	北海道学校体育研究連盟定期総会参加
	7月29日	第34回全道研究担当者研修会
	8月～	小・中指導案検討およびプレ授業
	10月8日	旭川市教育研究大会
	10月17日	全道代表者研修会参加
	10月18日	第60回北海道学校体育研究大会札幌大会参加
令和7年	3月21日	企画委員会（新年度体制・定期総会について）

4 旭川市教育研究大会

- 1 期 日 令和6年10月8日（火）
- 2 研究授業 旭川市立東栄小学校 前川 裕太郎 教諭 第5学年 ボール運動【ゴール型ゲーム】
旭川市立六合中学校 増野 貴之 教諭 第3学年 ボール運動【ネット型ゲーム】
- 3 小中合同研修 講師 高瀬 淳也 教授（北海道教育大学旭川校保健体育教育分野）

■小学校研究授業の概要

バスケットボールを基にした易しいゲームを通して、全員が自分の役割を果たし、技能によらず体を動かすことの楽しさや喜びが味わえるように、教材や単元を工夫した。目指す姿を「全員で協力してボールを前方に運ぶ」こととし、達成するために、ボールを持つときと持たないときの動きを大切にできるよう指導した。また、攻撃優位の場面をつくるようなルール設定を工夫した。さらに、練習コートと試合コートを1つ作り、時間ごとに入れ替えることで、子どもの思考がコートごとに切り替わり、課題を見つけ、粘り強く解決に迎えるようにした。このような工夫から、子どもたちが運動に親しみ、自己やチームの課題解決のために意見を伝え合い、よりよい動きを目指す姿が見られた。

■中学校研究授業の概要

3学年のバレーボールの研究授業に取り組んだ。2年ぶりのバレーボールということで、単元前半ではパス・サーブ・スパイク・ブロックといった技能の習得に重点を置いた学習を行った。単元後半では、グループ活動を中心に「攻防をつなげるためのフォーメーション」や「より効果的な攻撃に繋げるためのトスやスパイク」といった課題解決のために、話し合いやグループ練習を行った。本時においては、「オープン攻撃」や「クイック攻撃」などから自チームに必要なと思われる攻撃パターンを選択し、ゲームの中で成功させることを課題として取り組んだ。動画を活用しての課題提示や、試合でのフォーメーションの動作の様子を動画撮影して確認するなどICTを有効に活用している様子が見られた。

■小中合同研修の概要

より参加員の知見をもちより、個々人の実践につなげていくために、小中合同研修とした。テーマを「自ら求め、豊かに関わる体育授業のあり方」として、R6年度研究主題である「自ら求め、豊かに関わる子」の具体、そういった子を育てるための授業の在り方について、意見を深めた。高瀬先生から「よい体育授業の条件」やテーマについてのご講演をいただいたことを土台にできたこともあり、活発な意見交流ができた。



5 旭川支部における特徴的な取組

1 DX化（デジタルトランスフォーメーション）

目的：「働き方改革」の視点…旭川支部に関わる人全員が簡単に資料を送受信できる。

「全体共有」の視点…実践した内容や研究会の情報を共有しやすくなる。

具体的な内容：「Google Classroom」の活用…紙での資料配付を廃止すると共に、資料やアンケートをデータ送信する。

「Google ドライブ」の活用…データを一元化することで全部員が過去の資料も含め、必要な資料にいつでもアクセスできるようになる。

2 小中合同研修の実施（R6年度から）

目的：小中学校の保健体育教師が、日々の課題をもちよりながら、互恵的な学びを目指す。

研修主題を自分事として捉えられるようにする。